

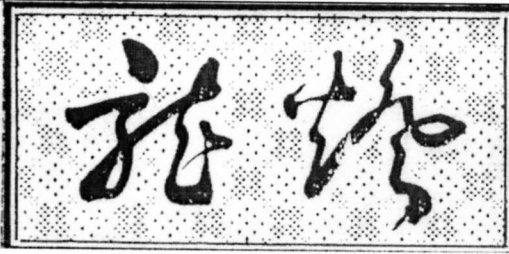
第 60 号

大阪 市 史 跡 龍 溪 禪 師 墓 所 靈 亀 山 九 島 院
 〒 550-0022 大 阪 市 西 区 本 田 3 丁 目 4 番 18 号
 TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行所

発行者

第 廿 五 代 住 職 奥 田 啓 知 (智 證)



当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

酒は飲んででも吞まれるな ～中川元財務相・草薨剛さんと酒～

いささか旧聞に属しますが、先進七ヶ国財務相・中央銀行総裁会議(G7)での中川昭一元財務大臣の『酔酩会見』や、人気アイドル「S.M.A.P」のメンバー草薨剛さんの泥酔による公然わいせつの現行犯(?)逮捕など、過度の飲酒による失敗が続いています。

毎日新聞夕刊に「酒を飲むとどうなるか」というコラムがありました。酒を飲むと「心のなかで鬱積した感情が表に出たり我慢していたことをしてしまふ傾向になる」と書かれていました。

ストレス解消でお酒を飲むことは別に悪いことではありません。「酒は百薬の長」といって適度な酒はどんな薬にもまさる効果があります。一人が酒を飲み、酒が酒を飲む」になつてしまつてはいけません。酒に吞まれて、シラフになり、「私が?」とびっくりしても、取り返しがつきません。

仏教の基本的な戒は「不殺生(殺すな)、不偷盗(盗むな)、不邪淫(淫らなことをするな)、不妄語(嘘をつくな)、不飲酒(酒を飲むな)」

です。

不殺生から不妄語までは、それ自体が罪障なので「性戒」といいますが、不飲酒は「遮戒」といいます。お酒を飲むこと自体はたいした罪ではなく、お酒を飲むと気が大きくなり他の戒律を守りにくくなるから制定されたのです。

原始仏教聖典には、「酒は人を怠けさせる。酒におぼれる者には六つの禍(わざわい)がある。財産が失われ、口論が増え病気の原因となり、評判が悪くなり、性を露出する(といった恥知らずの行為をし)、知力が衰える」(『長部教典』)と説かれています。

お釈迦様も、お酒を飲むことによつてもたらされる10の過失を説かれています。

それは、「顔色が悪くなる」「力が弱くなる」「視力が悪くなる」「怒りの相を現す」「生業の手段を失う」「病を増す」「争うことが多くなる」「人望を失い、悪名が流布される」「智慧が減退する」「身を亡ぼし地獄・餓鬼・畜生に墮ちる」です。



そこで、お釈迦様は「怒るべき10の過ちの原因である酒を慎め」と言われ、「もし比丘、酒を飲むものは波逸提(はいつだい)である」と制戒されました。「波逸提」とは自分以外の一人の前で懺悔すれば許される比較的軽い罪のことです。

平安仏教の二大巨星の最澄と空海でも、酒に対する態度が違います。最澄は、酒を飲むものは比叡山を去るべし...と毅然としています。空海は、塩酒(塩をつまみに飲む酒)一杯はこれを許すとやや甘い態度をとっています。

いくらお釈迦様が、飲酒を「波逸提」、軽い罪とされても自制できないのなら飲まないことです。中川昭一元財務大臣や草薨剛さんも...

